

同志社大学

2011年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2012年 2月 4日提出

所属	職名	氏名
経済学部	教授	末永國紀
研究題目	近江商人の広域志向経営システムの研究	
研究成果の概要	<p>研究成果</p> <p>① 『近江商人 三方よし経営に学ぶ』（ミネルヴァ書房）を刊行した これからの企業は、維持可能な成長をするには、地球からの一定の資源開発を続けなければならないが、それでいて地球環境を保全しなければならないという難しい課題を背負っている。成長と開発と環境保全は相互に矛盾した課題であり、その解決の糸口としてCSRにもとづいた新しい企業の社会的責任経営が喧伝されるようになったのである。そのなかでの本書の最大のメッセージは、CSR経営というのは何も目新しいことではなく、近江商人の経営と理念こそその先駆であったことを伝えることにある。</p> <p>② 史料「近江商人野田六左衛門家の家訓と店則」（『経済学論叢』63巻2号） 近江商人野田六左衛門家には、年次の明確な家訓として「家訓 家事改革秘書」、店則として「店人心得書」がある。前者は文末の注記によって、文政一〇年（一八二七）十一月晦日に三代目当主によって書かれたものを、明治時代になってからあらためて家訓として制定したものであることが分かる。残存しているのは、罫線のある紙に綴じられた写しである。筆写と家訓制定の年次は不明。後者は明治一七年（一八八四）一月に定められた店則である。「家訓 家事改革秘書」は、全五〇箇条からなっていて、商家の当主を中心にした経営陣を構成する人々を対象にした家訓であることに特徴がある。</p>	